

平成31年6月25日

横須賀市長 上地克明 殿

要 請 書

原子力空母母港化の是非を問う住民投票を成功させる会

共同代表	呉 東	正 彦
同	新 倉	裕 史
同	小 林	麻 利 子
同	今 野	宏
同	三 影	憲 一

今年も1月から開始されている原子力空母Rレーガンの原子炉を含むメンテナンスの結果発生した放射性廃棄物の搬出作業が5月2日に行われ、その後原子力空母Rレーガンは試験航海に出て、戻った後に、5月22日に長期航海に出航しました。

そこで私達は市長に以下の行動をとるよう、緊急に求めます。

- 1 まず、1月から実施されたのは、原子力空母の原子炉を含む定期修理作業であり、そのために、米国から放射能作業専門の修理工が600人も来ているのです。

原子炉を安全に運転するためには、定期修理作業によって、汚染された一次冷却水をクリーンなものに交換することと、高圧高温の一次冷却水が循環する一次冷却水の配管の痛んだ部分を交換する作業が不可欠です。

従って、これはエードメモワールの動力装置の修理にも、ファクトシートの原子炉の修理にも、明らかに該当する作業なので、それはエードメモワールにも、ファクトシートにも違反します。

市が違反しないと主張されるならば、米海軍に対して、上記原子炉の定期修理作業の具体的内容を照会して下さい。

また米国造船所内では原子力空母の定期修理中に、別紙のように多数の放射能漏れ、従業員の被曝事故等が報告されていますので、毎年の修理期間内のトラブルにつき、英国の事例と同様に情報公開を求めて下さい。

- 2、次に、放射性廃棄物の原子力空母からの搬出についても、上記原子力空母の原子炉の定期修理作業の結果発生した低レベルの放射性廃棄物を搬出するというものです。

しかし、上記定期修理の作業内容からして、確実に1年使って放射能で相当汚染された交換一次冷却水と、その配管の痛んだ部分の交換部品が発生し、これは低レベルとは言えない、相当レベルの放射能で汚染されているものです。

この交換一次冷却水は、専用容器に入れてコンテナで搬出しているのか、2のように12カイリ以遠で、海洋投棄しているのか、あるいは艦内に貯蔵して燃料交換の時に米国に持ちかえっているか、米海軍に照会して下さい。

また交換一次冷却水配管も、コンテナで搬出しているのか、照会して下さい。

3、次に、この放射性廃棄物の原子力艦からの搬出に関しては、別紙メモのとおり、エード・メモワールと、ファクトシートは、全く違う内容が書かれ、かつファクトシートはエード・メモワールのコミットメントは引き続き堅持されると述べています。

米国と外務省によるこのようなトリックによって、市民の安全が危機にさらされる事態となっていることを、十分ご理解いただき、エードメモワールにも、ファクトシートにも違反する、横須賀港内での放射性廃棄物の原子力艦からの搬出と、一般輸送船による輸送に対して、中止の申入れをして下さい。

4、さらに原子力空母の原子炉の定期修理が横須賀で行われることとなった結果として、定期修理後の試験航海で、『プロパルジョン・プラント・ドリル』という原子炉稼働中に原子炉を緊急停止させ、さらに急稼働させる、原子炉に急激な負荷のかかる過酷な試験が行われていることが、別紙のとおり原子力空母ジョージワシントンの航海日誌で明らかになりました。

そしてその過酷試験の緊急停止後の急稼働の結果、膨張して過剰となった一次冷却水と、発生した放射性気体を原子力空母ジョージワシントンは、2011年4月に、日本の200カイリ水域内で、横須賀に寄港途中に、数回艦外に放出したことも明らかになりました。

そして、万一、試験航海中の『プロパルジョン・プラント・ドリル』で、原子炉が事故やトラブルを起こした場合、場合によっては事故、放射能を出した状態で、横須賀基地に帰港することも、全くありえなくはありません。

このような試験航海中の試験実施の事実と、日本の経済的水域内での放射性液体、気体の排出の事実につき、ファクトシートの内容に関連して照会して下さい。

5、原子力艦防災訓練の範囲拡大と内容充実について、引き続き、国に働きかけをするとともに、最悪の事故を想定し、規模、対象範囲を拡大し、より多くの市民の参加、3キロ以遠への避難訓練、被曝医療訓練等の新しい取り組みも加えて下さい。